

剣道大会で3連覇！ワークライフバランスの充実を実践



神奈川地本は「余暇を使って心身ともにリフレッシュをすることで、普段の業務にて、より一層個々の力を発揮してもらいたい。今後も、年次休暇や代休、フレックス制度等を取得しやすい環境整備を実践し、積極的な取得を推進したい」としている。

自衛隊神奈川地方協力本部募集課の中野佑太郎2等陸曹は、7月23日（日）、横須賀市西体育会館にて行われた横須賀年代別剣道大会（主催 横須賀市剣道連盟）に出場し、30代の部（個人）で3連覇を果たした。

「6歳の頃、兄2人がやっているのを見て楽しそうだと思い剣道を始めた」という中野2曹は、2019年から本大会への出場を続けている。（21年、22年の大会はコロナウィルスによる影響で中止。）中野2曹は「午前中に、息子が6年生の部で優勝、娘が4年生の部で3位に入っており、優勝できてほっとしました。父としての威厳も保てました」と喜びを語った。

中野2曹にとって剣道とは何かと問い掛けると、「人生即剣道」であり、人生（私生活）が剣道に出るし、剣道が私生活や仕事に生きるものである」と即座に明答した。また、出勤時間は早いものの、時差通勤や通常の課業前にOYA業務を集中して行う等、フレックス制度のメリットを活用し、週4日ほどの練習や家族との時間も大切に過ごしながら、公私ともに充実した生活を送っている中野2曹は、ワークライフバランスの充実を推奨している神奈川地本にとってまさに模範のような存在である。



自衛官募集相談員と共に広報活動



8月26日（土）、横須賀市御幸浜に所在する武山駐屯地において、地域住民の自衛隊に対する理解と信頼感の醸成を目的とした第34回横須賀市西地区納涼花火大会が開催され、自衛隊神奈川地方協力本部横須賀地域事務所（所長 田尾雅弘3等海佐）は、自衛官の募集のための広報を援助する目的で設立された民間の団体である三浦半島地区自衛官募集相談員会と共に参加しました。

納涼花火大会には市内外から約8,400人が来場され、横須賀地域事務所員と自衛官募集相談員の方々は、広報用パンフレットやうちわなどを配布するとともに自衛隊の活動等に関する説明を実施しました。来場者の1人は、「初めて自衛隊の駐屯地に入り、自衛官の方と話をしました。盆踊りや花火を観覧しながら来場者と話している自衛官の方を見て、楽しそうなイメージを持ちました」と話していました。

納涼花火大会終了後、横須賀地域事務所次長の和田陸曹長は、「来場者の皆様笑顔で楽しんでる姿を見て、地域住民の方の更なる信頼感の醸成に努めるべく、自衛官募集相談員の方々と共に積極的に広報活動を行い、自衛官の募集につなげていきたい」と熱く意気込みを語っていました。

